

議事録

令和6年度神奈川県献血推進協議会 開催結果（令和7年2月26日～3月10日 書面開催）

1 議題 令和7年度神奈川県献血推進計画（案）について

承認する 18人／承認しない 0人（欠席1人）

上記のとおり、議題は承認されました。

2 その他 各委員から、次のとおり御意見、御質問が寄せられました。

いただいた貴重な御意見等は、今後の献血推進の参考とさせていただきます。

【県議会議員 あらい委員】

○年齢別献血状況を見ると、50代以上が約半数を占めており、20～40代の献血者が増えている中、予てより議論されている若者の献血者を増やしていく事が課題であると考えます。SNSでの広報を行っていますが、SNSで情報が拡散されるには若者が興味を持つ情報のため、インフルエンサー（情報発信によって、世間の人々の思考や行動に大きな影響を与える人物）の協力のもと拡散される情報や献血ルームでのイベントなどを開催したら如何でしょうか。

○全国的にみて若者の献血率が高い愛媛県や高知県では独自の取り組みを行っているのでしょうか。

○献血バスの配車を依頼しても検診医師が確保出来ないため、配車出来ない事が多いと聞きますが、医師の確保状況について確認をしたい。

【事務局回答】

インフルエンサーを活用した大規模な若年層向けの啓発キャンペーンについては、事業予算等の理由から、県や神奈川県赤十字血液センターとしては実施できていないものの、関東甲信越ブロック血液センターや日本赤十字社血液事業本部による広域的な取組みとして、人気インフルエンサーによる献血関連のSNS投稿を見た献血協力者へのノベルティグッズの配布や、コラボ動画の作成などを実施しております。

また、献血ルームごとにイベントは異なりますが、手相占いやカイロプラクティック等のイベントを日替わりで開催しております。平日限定で、献血に協力いただいた学生に記念品をプレゼントするキャンペーンを行っている献血ルームもあります。

愛媛県・高知県の血液事業所管課へ確認したところ、高等学校での献血セミナー実施や大学生ボランティアとの積極的な連携に取り組んでいるとの回答がございました。他の地域における献血推進に関する取組みの情報収集を図り、県内における献血推進活動の参考としてまいります。

検診医師の確保につきましては、血液事業の各県血液センターにおける人員の配置は、年間の血液確保目標量から算出されており、検診医師の人数についても同様のため、検診医師の不足により配車ができなかったことはありませんが、引き続き配車については適切に調整を図っ

ていきます。

献血バスの配車をお断りせざるを得ない理由としては、既に全ての献血バスの稼働予定が決まっている場合等が挙げられます。また、献血バス1台で1日に確保しなければならない献血協力者数の目安である45～50名の確保が難しい場合も考えられますが、このような場合でも、午前・午後半日単位で献血バスを配車する等、可能な限りの配車調整を行っております。

【株式会社テレビ神奈川 近藤委員】

○動画、SNS等を活用した広報について

SNSを拝見しています(フォローしています)。継続的な投稿は大事なので、大変ですが引き続きお願いします。

【事務局回答】

貴重なご意見ありがとうございます。SNSへの継続的な投稿や、動画「LIFE GOES ON」シリーズの作成等を通じて、幅広い層の方々から献血へのご理解、ご協力を賜れるよう、積極的な情報発信に今後も努めてまいります。

【公募：島本 久美子委員】

○資料2 P2

効果的な各種の献血普及活動はもちろん重要であり、よく目にするようになってきていると感じます。ただし、SNS等の発信は個人の投稿などで誤った情報(発信)がなされた場合、対応も重要になってくるかもしれません、一層の注意が必要と思われれます。

個人的な経験ですが、三度、成分献血(血漿)が上手くいかないときがあり、一度などは献血できないまま帰宅ということがありました。幸い多少の内出血で済んだのは適切な処置のおかげです。私の血管の“癖”もあるでしょうが、献血の針は通常より太いとのこと、現場の看護師の皆様には、激励の意味も込めて、一層の研鑽を是非お願いしたいと存じます。

【事務局回答】

献血協力者の方や輸血を受ける方の安全を守るためには、献血に関する正しい知識を持っていただくことが重要です。個人のSNS投稿に対する都度の対応は困難ですが、県、血液センターのホームページやSNSでの正確な情報発信を継続して行っていくとともに、併せまして、厚生労働省や日本赤十字社によるパンフレットの各種学校での配布や、「キッズ献血」の実施等を通じて、小中学生の段階からの献血に関する正しい知識の普及啓発にも取り組んでまいります。

また、献血協力者の方に、継続的に安心して献血にご協力いただくためにも、研修等を通じて献血ルームや献血バスで業務に従事する現場職員の技術的研鑽に努めてまいります。

【特定非営利活動法人アドバイザーネットワーク神奈川：藤澤 浩子委員】

○献血者数、献血量について、前年同期を上回っており、今後順調に推移することを期待する。
○30代以下の若年層の減少傾向が止まらないとのこと、若年人口そのものの減少ということもあろうかと思われませんが、必要数を確保することを目指すならば、より一層の啓発及び機会確保の努力が求められると思います。特に、献血の必要性和血液の需要、利用状況等に関する、具体的かつ明快な解説が必要だと思います。

○資料2の7ページ

献血協力企業・団体の開拓で、25会場の新規開拓があったことを高く評価します。

○資料2の8ページ

献血web会員サービス「ラブラッド」について、会員数、予約率とも伸びており、特に若年層の開拓に今後も有効であろうと期待されます。

○資料3-1の3ページ オ

複数回献血の推進について、ラブラッドの活用は有効と思われます。若年層に限らず中高年齢層にもアプリの普及は進んできているため、多様な年齢層向けに活用できると思われる。

【事務局回答】

昨年度同様、年度末に目標を達成できるよう努力してまいります。

若年層の方々に対して、献血の必要性和血液の需要、利用状況等について詳細に解説し理解を深めていただく機会として、県内の中学校、高等学校、大学等における献血セミナーや職業体験会を実施しております。ご提供いただいた資料内容も参考とさせていただき、より多くの方に受講していただけるよう取組みを進めてまいります。

企業・団体のご協力につきましては、必要な血液量を確保する上で非常に重要であるため、来年度も引き続き、献血にご協力いただける企業・団体の新規開拓に努めてまいります。

献血web会員サービス「ラブラッド」につきましては、事前予約による献血時の待ち時間の短縮だけでなく、血液検査結果を閲覧できる機能を活用した健康状態の継続的チェックや、検査結果を元に地域薬局で薬剤師に健康相談を行うなど、様々な活用法が考えられますので、これらの要素もPRしながら、幅広い年齢層に対して、一層の普及に取り組んでまいります。

【一般社団法人神奈川県経営者協会 関口委員】

○資料1：前年比のとらえ方が、前年度末と当年度の12月の比較、というのは、とてもわかりにくいです。前年の同時期比としないのはなぜでしょうか？

○資料2：どの取組がどれだけ献血人数、献血量に貢献できたのか、の振返りはされているのでしょうか？

○資料3：今年度の取組みの振返りを受けてのPDCAは回った結果なののでしょうか？

○資料3：若年層の伸び悩みが課題で、一層の啓発に努めなくては、とありますが、具体的にはどのような取組みが一層の啓発になるのでしょうか？

【事務局回答】

実績報告の形式につきましては、協議会の開催時期を踏まえた最新状況（当年度 12 月末時点）と、昨年度の最終的な実績報告を兼ねて現在の形としておりますが、ご指摘いただいた内容を踏まえ、次回以降の報告様式の改善について検討してまいります。

啓発の取組みの効果検証については、携帯電話で献血ルームの広告を閲覧した方のルーム訪問をGPSデータ推定で把握したり、啓発広告のデジタルサイネージの前面通行量を参照したりしていますが、献血人数や血液量の増加の正確な把握は困難なため、効果検証手法を検討してまいります。なお、献血ルームにおいては、献血者の方々からのキャンペーン参加申告数を集計する等して、キャンペーン毎に効果について把握するよう努めています。

令和7年度の取組み内容として新たな項目は設けていませんが、中学校や高等学校、大学等における献血セミナー・職業体験会についての教育機関との連携強化や、高校生を対象とした啓発チラシの配布範囲の拡充等の取組みを進めてまいります。